

第三回 南区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

1. 日 時 平成25年10月1日（火）午前10時～正午

2. 場 所 南区役所 3階ホール

3. 出席委員

高智穂委員、浦田委員、福田委員、荒牧委員、近藤委員、栄田委員、豊田委員
松岡委員、濱崎委員、植村委員、森委員、岡委員（副会長）、宮本委員（監事）
石原委員、吉村委員、田中委員（会長）

4. 配布資料

資料1－会議次第

資料2－委員名簿

資料3－「平成25年度 まちづくり推進事業進捗状況」パワーポイント資料

資料4－「地域版ハザードマップ、交通空白地域、健康のまちづくり」パワーポイント資料

資料5－「平成26年度 まちづくり推進事業の方向性」パワーポイント資料

5. 次第

(1)開 会

(2)挨 拶 南区長 永目 工嗣

(3)平成25年度まちづくり推進事業等の進捗状況について

(4)平成26年度まちづくり推進事業について

(5)その他

(6)閉 会

6. 議事録（要旨）

- 田中会長 前回のまちづくり懇話会（区内視察）の振り返りをしたい。前回の南区内視察の感想や意見をお伺いしたい。
- 岡副会長 実際に動いてみると、南区は山も海もあってやっぱり広いと感じた。各地区に歴史があって、いろんな人がいるので、ほかの地区にも視察に行きたい。
- 高千穂委員 南区は由緒ある歴史的場所が多いと感じた。中牟田閘門はまだ観光地としての知名度が少ない。現在は青少年育成のためのプレイパークとして活用されているとのことだが、アクセスの整備をして、将来的に海水浴場などの施設を作り、子どもたちが集まる場として開拓してはどうかと思う。
- 浦田委員 中牟田閘門を観光面でもっとPRできればいいと思う。飽田の野菜集荷場もあれほどレベルが高い集荷場は他になかなかないと思う。あれくらいの農産物の集荷場があることは誇らしいことだと考える。
- 荒牧委員 中牟田閘門が素晴らしかった。また、その近くの観音寺というお寺には新幹線の工事のときに出た礎が展示されていて、中牟田閘門を訪れる際は、観音寺にも併せて訪れるよう案内すれば良いと思う。塚原古墳を訪れる際はメリ穴公園にも一緒に行く、鰐瀬の泉水にも一緒に行く、というふうに何箇所かまとめて行くようにしたら、良い観光コースになると思う。
- 栄田委員 前回、区内の多くの史跡を回ってみて、いずれもアクセスが非常に悪いと感じた。ルート化がなかなかできない。資源の開発のためには、人工的な手入れも必要。史跡の価値を生かすことがこれからの課題だと考える。
- 吉村委員 古墳や六殿宮など歴史史跡を沢山見たが、それにまつわる物語をもっと掘り起こして、系統立てて周ると、長い歴史を一集できてもっと楽しめるのではないかと思った。
- 石原委員 前回の視察のレポートを作ってきたので、皆さんにお読みいただきたい。「今日の視察をどのように南区まちづくりビジョンに活かすか」について記載したが、まとめて言うと「ありきたりだが、南区の人々に知らせることが大事と思った。身近な場所だから情報をもとに、親子や家族、グループで現地に遊び感覚で行ってもらうような手立てを後押しすることで、多くの人に郷土のよさを知ってもらうことになると思う。」と書いている。最後に「先人の業績や文化遺産を引き継ぎたいと思う人材を育てられることを期待したい。」と書いたが、このあたりの人材育成を一緒に考えられる場にしてもらえばありがたい。

宮本委員 富合の六殿神社は由緒ある神社らしいが、ここは知らない人も多いので、南区として区内外、県内外にも広く情報発信してほしい。

森委員 南区には名所・旧跡はたくさんあるが、子育て中に遊びがてら行ける場所が少ない。私たちがもっと南区の名所・旧跡を知らなければいけないし、子どもたちに伝えていくために、子どもと一緒に足を運びやすい場所がもっと必要だと思う。

植村委員 今、観光客を呼び込むためにいろんなことをしているが、どこに尋ねたら良いか分からないという声が多い。川尻駅などで交通ルートの案内をするとかここに連絡をしたら良いとかよそから来られた方にもわかりやすい案内をすることが大切だと思う。

松岡委員 私もレポートを作ってきた。今回3つのテーマに絞って、歴史文化、水文化、食文化の視点で現地を見て来た。情報は非常にまちづくりに大事だと感じた。情報がどこにあって、その情報をどうやってまちづくりにつないでいくのか、人の集まるところに情報があって、情報が情報を生み出す。今朝のテレビで古墳が大ブームだと放送されていた。城南にも塚原古墳公園があるし、探せば南区に文化財がもっとある。情報の波に乗って、まちづくりを進めるのも一つの方法だと思う。

豊田委員 六殿神社という立派な神社があることを初めて知り、中無田閘門も名前は耳にしていたが初めて見て驚いた。JAは立派な施設だが時期が悪く稼働していない時だったので残念だった。慌しく見学したがもう一度行きたい。情報は人の好みが違うように、好きなことは耳に入るが同じ情報を流しても興味のない人の耳には入らないというのがあると思う。

田中会長 誰かと一緒にまち歩きをすることが大事。興味のあるなしは人だから仕方ないし地域によってあるなしは違うので、一人で行くと分からないものが誰かと一緒に行くことで情報を共有できると思う。南区にはまだ知らないことがたくさんあるので、まちづくり懇話会や6地区で行ったワークショップでもらった意見を寄せて、5年～10年の現実的な目標を作ってやっていくことが大事だと思った。それでは議事に入る。「平成25年度まちづくり推進事業等の進捗状況について」の説明をお願いします。

(事務局 「平成25年度まちづくり推進事業等の進捗状況について」説明)

田中会長 去年「南区を知ろう」ということから始めて立派な計画もでき、今年は実際に活動を作りながら皆さんでチェックして行こうとしている。「平成25年度ビジョンの実現に向けて、『参画と協働』による具体的なまちづくりの取り組

みの推進」として①「区民の皆さんとのビジョン共有」、②「専門的見地からの意見集約」、③「テーマ毎の意見集約」、④「各地域からの意見集約」の大きな4本の柱についてご説明いただいた。このことについて質問や意見があったら発言をお願いします。

松岡委員 この資料を見て、行政の方や関係者の方々がとても議論をされていると感じた。私は城南町でワークショップに参加したが、こういう事業をそれぞれのまちの住民がどのくらい意識を持っているのか、実際ワークショップに参加されているのかを僕自身が見えていないので、本当の住民の真摯な気持ち、正直な気持ちがまちづくりに反映されているのかなとちょっと疑問がある。行政側はいろんなプログラムを組まれているかと思うが、住民がもう少し気楽に素直に自分の気持ちを伝えられる場の設定があればと思う。

田中会長 住民目線で見たとときに、気軽さというかそういう場所ができているかどうか。もちろんワークショップもすごく熱心にされている方と係の役割だからと来られている方といるが、やる気のある方にはどんどんやっていただきたいし、逆にやる気のない方には知っていただく必要がある。そういう場所をどうやって作っていくかが課題。事務局に質問だが、6地区でワークショップをやってみて、いろんな意見が出たと思うが、特に多かった意見とかはあるか。

事務局 地域ごとで特色も違うため、ワークショップで出たご意見はバラバラだったが、生活環境のことや安全安心に関するご意見や人の繋がりなどの地域コミュニティに関することは6地域で共通して多く挙げられた。こちらについても今から分析していく必要があり、各地域からたくさんのご意見をいただいたので、うまく整理していきたい。

田中会長 僕もワークショップに参加したが、本当に沢山の意見が出て、単純にあれがほしいこれがほしいという意見もあれば、僕たちがはっとするような意見もあった。今回のワークショップは発言された意見は全部聴くというスタイルで、一番気軽な場所としてワークショップをさせてもらった。それよりもっと専門的な意見は③「テーマ毎の意見集約」になる。たとえば、歴史や文化財を生かしたまちづくりをしたいという専門的なご意見をお持ちの方はそちらによっていただく。それはエリアごとにつくるのはちょっと難しいので、南区でひとつという形になると思う。自然や歴史や文化などはテーマでやっていけるが、健康や安心安全は各地域に共通するものなので、それは行政にやっていただく。地域はいろんな問題があってこそ地域であって、小さな問題から大きな問題まで聞いていき、大きな問題はテーマごとで話し合い、小さな問題はご近所で解決していくことが必要だと思う。

松岡委員 「区民とのビジョン共有」という言葉が使われているが、区だよりの発行で現地に行かなくても、〇〇町ではこういう取り組みがっているとといった情報を知ることができ、まちづくりに関してのビジョンの共有ができる。そういった意味では区だよりは重要性があるが、要望として、市民活動の情報発信の場を設けて欲しい。現在はまだ官報に近い内容だと思うが、市民活動の情報発信の場があると、もっと私達が共有できる内容がでてくると思う。

近藤委員 南区だよりをいただいたが回覧版に入らなかった。回覧板に挟むのに折りたたむと、開いてみる人がいない。見なかったという人が多かったので、経費はかかると思うが、市政だよりのように各戸配布にしたほうがいいと思う。

福田委員 このサイズは回覧で回す時に非常に回しづらい。その辺のご考慮をお願いしたい。

田中会長 区だよりの位置付けを説明いただきたい。

事務局 市政だよりは広い範囲での行政からのお知らせが主となる。今回の南区だよりは創刊号で、ビジョンの周知等の目的もあったので、行政からの情報発信に近いものになったが、基本的には、区だよりは南区の行政の情報も発信しながら、地域住民の方々の身近な情報も発信していければと思っている。南区民の方々と行政との情報共有と情報発信の場にしていきたいと考えている。

田中会長 市政だよりと区だよりの位置付けが違うということが分かったが、双方向というか行政から地域へ、地域から行政へというのが伝わると、地域からでも情報を持ってくると思う。今後は若い人の意見や日ごろ情報発信していない人の声を聞きたいというニーズも出てくると思うので、区だよりがそのような情報の交換の場になっていけばいいと思う。より充実していけるように手に取りやすい大きさ、見易さ等あると思うし、デザインは大事だと思うので、また改良していただきたい。
次の議事である「平成26年度まちづくり推進事業について」の説明をお願いします。

(事務局 「平成26年度まちづくり推進事業について」説明)

田中会長 ①「南区を知ろう」(広報)事業の充実、②まちづくりを担う人材育成の充実、③テーマに応じた区のまちづくり推進事業、④地域(エリア)の特性を活かしたまちづくりの推進事業、の4本の柱で今後どうしていくかが課題。4本柱は確かに大事だが、柱だけでは地震が来た時に揺れてしまう。何が大事かというと、斜交い(はすかい)と言って斜めに入れる材料があり、それを入れることで構造がしっかりする。まちづくり推進事業の4本柱に斜交いをい

れて、斜めにタスキ掛けしていくことが大事だと思う。それぞれの地域でそれぞれの良さを4本の柱に斜交いしていくような形で積み上げていくといいのではないか。テーマ型のコミュニティについても、健康・防災・子ども・歴史文化・自然・農とありますが、こういったものをひとつでやるのは難しいので誰かと一緒にやっていくということが大事。特にエリア型のコミュニティの中では、一つやった時に他のことも色々聞いておくというのも大事なと思う。来年度は4本の柱でやっていくとのことだが、これは案なので、もっといいアイデアがあれば教えてほしい。こうして地域の小さいつづやきが事業に集約されていくので、この場で何か足りないものや抜けているものがあれば、ご意見をいただきたい。

石原委員 ③テーマに応じた区のまちづくり推進事業の中に「自然を活かした地域連携のまちづくり支援」とあるが、何か具体的な例があると分かりやすいが、自然を活かすとはどういうものなのか、地域連携とは6地区なのか南区全体なのかもう少し詳しくお願いしたい。

事務局 地域という捉え方は確かに色々あると思うが、まちづくり推進事業における広がりとしては中学校区単位以上といったところで考えており、先程の話にもあったペーロン大会は天明、川尻、富合、城南の地域が連携して行われた。そういった広範な地域が連携して大会や色々な事業に取り組まれるというのも、一つの例として挙げられるかと思う。

田中会長 南区には6地域があるが、それを超えるような、でも南区でおさまっていて、南区の考えになるような事業で書かれていると思う。

植村委員 ペーロン大会の話が出たが、ただ地域で連携するだけではなく、その後の地域間交流まで持っていくことが大事だと思う。ペーロン大会だけでは、「楽しかったね」で終わってしまうが、その1週間後に地域間交流会があった。ペーロン大会には参加できなかったが、交流会に誘われ参加した。そこでは地域を越えた色々な話が出ていたし、商売をしている方の話や城南で作られているものの話とか色々なお話が出ていた。大会だけで終わらず、地域間を越えた心と心の交流が大事ではないかと思う。足りないものについては、弱者と言われる高齢者、障害者のことが抜けているのではないかと思う。今は高齢者も元気でいらっしゃるので入らないのかもしれないが、障害者の方は地域で普通の生活ができるような社会になればいいなと思っているので、そういう面にも心を配っていただきたい。

田中会長 ただ楽しいで終わらせるのではなく、実になるところまで持っていくことが大事と。これは政令市になって南区という枠ができたことも大きく関係していると思うので喜ばしいこと。熊本市でやっている健康政策もお子さん達、

中高年、障害をお持ちの方達がいきいきと暮らせるようにという意図があると思うので、その点も漏れないように見ていただければと思う。

吉村委員 「南区まちづくりビジョン実現に向けて」の資料は市民の目線で考えてあると思うが、川尻では職人の後を継ぐ人がいないので、職人を主役にして前面に出すこと大事だと思う。農業の後継者についてもそうだと思うし、生きがいや誇りを持った後継者が育つように、より市民目線から見ていただけたらと思う。

田中会長 ②の「まちづくりを担う人材育成」にも関係するが、職人さんや農家の後継者や次の世代を考えていくことは凄く大事。資料には健康と防災と書いてあるが、3つめの地域課題として川尻だったら職人さん、飽田や天明だったら農家などそれぞれの地域に後継者となる人材を育てていくことが大事。

森委員 私は子育て支援ネットワークに関わっていて、市の協力もあり、いろんな所に子育てのネットワークができ、そのネットワーク同士のつながり、横の連携は取れるようになってきた。子育てしやすい環境づくりのためには他との連携が必要だと感じた。

田中会長 地域や学校と色々な単位で精力的にやっておられる方がいらっしゃって、そういうネットワーク同士のつながりも大事だと。一般的に「ハブ」と言うが、区役所のまちづくり交流室や区だよりが情報交換の場所としてその役割を担うのではないかと思う。①「南区を知ろう」の広報だけじゃなくて、まちづくり交流室の情報拠点コーナーもある。森委員がお話された内容も、子育てというのは子どもと親・ご近所さんの斜交いになっていく大事な部分です。特に配慮していただきたい。

松岡委員 まちづくりをするのに一番重要なのは人づくりだと思う。川尻の婦人会は活発でネットワークの連携も取れているが、城南町に関しては婦人会や老人会の活動が低迷化している。僕達は次の時代を担う人達の育成を図りたいが、ほとんどの町に青年団がない。職人の育成も必要という話も出ているし、地域ごとに次の時代を担う担い手の育成は問題がたくさんある。どこかで集約しながら、担い手は育つのか、育てなければならないのか、そういった現状、実状を知った上で取り組まなければ空論で終わってしまうのではないかと思う。まちづくりの担い手なので、「まちづくり＝人づくり」だと私は思うので、まずは実態を調べていただきたい。そこから切り込んでいかないと空論だけ言ってもしょうがないと思う。

田中会長 熊本大学の政策創造研究教育センターという所で、3年前から毎年地域づくり交流会というのをやっている。去年から南区役所の方に来ていただいて、

今年も川尻の方にも来ていただこうと思っている。その参加者に鳥取県にあま町という離島があって、そこはIターンの方が多く、やる気のある若者たちが仕事をしたい、島に来たいと人がどんどん集まっている場所。そこの方をお招きしているので、機会があればぜひ参加していただきたい。天草や山都町など熊本の中で頑張っておられる地域の方も呼び寄せている。先ほど婦人会のことを言われていたが、山都町も最初はそういうのは全然なかったが、新しい動きがどんどん出てきた。行政と大学でそういう交流会をやっている。特に大学には若い学生がいて、学生は南区の方のまち歩きのお手伝いをするので、地域の方に可愛がっていただいて、そこから学ぶこともある。

豊田委員 防災のまちづくりと担い手というお話だが、地域では消防団が一番目立っていると思う。以前は1軒に1人は消防団員がいたが、最近は入らない方や途中で辞められる方が増え、消防団員がいなくなっている。まちづくりにしろ何にしろ、消防団のような団体がまとまってくると、地域のまちづくりや健康のまちづくりにも関わりが出てくるのではないかなと思う。

田中会長 先ほど松岡委員がお話されたように地域の知恵を気軽に話し合えるような場所を作っていく必要があるのかもしれない。この懇話会がまさにそのような場所だと思うので、みなさん良い提案があればどんどん教えていただきたい。

高千穂委員 私は地域の活動に7年従事しておりますが、若い方たちはそれぞれの仕事があるので、地域の活動に従事することは時間的にも難しいと思う。最近は「みずあかり」など大学生が立ち上げたり参加したりするイベントもあり、立派な情熱を持って熱心に活動している若者もいる。各校区の自治会で下校時の見守り活動にも参加するが、PTAの方は少数で主に65歳～70歳代の方が従事しており、自然にそうせざるをえないような世の中になっていると思う。人材の育成やまちづくり等あるが、問題はそれに興味や関心を持つかどうかだと思う。若者が関心を持つような教育や周知が必要だと考える。

田中会長 高千穂委員の話も、豊田委員の話も人材育成の話だけでなく、④のエリアの話にも通じる。もっとエリアで色々と話し合うことが大事。地域の若手も上から押し付けられるとやりたくないもの。川尻の若手の方が元気なのはやりたいことをやっているからだと思う。やりたいことをやっているから地域のことやるというバランスが必要。地域で人材育成することも大事なので、まちづくりや人材育成は②だけじゃなくて④のエリアの面でも考えていく必要がある。

森委員 子育ての話に関連してだが、小中学校の家庭教育学級がほとんどの学校でなくなっている。家庭教育学級は、お母さんたちが集まって、子育てにつ

いての相談をお互いしたり、先輩のお母さんたちの意見を聞いたり、子育ての勉強の場となっていて、それがなくなってきていることはすごく悲しい。働きに出るお母さんたちが増えているので、日曜日にお父さんに来てもらったり、親子で一緒に集まったりなどの工夫をしながら続いてきたが、それでも集まるのが難しく、ほとんどの学校でなくなってきている。

田中会長　　そういう取り組みを続けていくことは大事なこと。まちづくりにおいて、ないものねだりがよくあるが、あるものを活かすことが大事。一度なくなってしまうと復活させるのは難しい。今ある知恵を継続させていくことが大切。続いていることには理由があるから続いている。そういう事例が他にもあったらぜひここで紹介してほしい。

植村委員　　他の校区では婦人会もなくなりつつあるが、先輩方から受け継いだものを後輩へつないでいくという責務があるので、なんとか婦人会を全校区に広めたいと思っている。

田中会長　　防災についても、地域のお祭りとかと一緒にやったり、短歌を作ったり、楽しみながらやると、意識を高めることができる。ヨーロッパでは防災の訓練と地域のお祭りが同時開催されることもある。そういう場で、若い人と年配の人がつながることや楽しんでやるのが大事だと思う。

岡委員　　先ほどの PTA と婦人会のつながりも地域のコミュニティで、会議にいろんな人が入ってきて、人と人がつながりあっていくから、川尻は人の繋がりが多いのではないかな。自分たちだけでやろうと思わずに、いろんな人たちを巻き込むやり方もいいのかなと思う。それがネットワークのつながりになる。テーマコミュニティとエリアコミュニティというのがあって、エリアコミュニティは地縁団体という意味もあり、チェーン団体という意味もある。エリアコミュニティとテーマコミュニティがチェーン団体になることが必要。いろんなテーマのネットワークがあるが、それを地域でチェーンしてあげることができるのが地縁団体だと思う。

田中会長　　地域では地縁がチェーンになって、どんどん絡まっていく。そうやって人と人がチェーンとしてつながっていけばいいと思う。今日はすごく良い意見をいただいた。最後に区長の意見があったらいただきたい。

永目区長　　最後に出た人材育成だが、地域団体や校区自治協議会長さんからよくその悩みを聞く。自治協議会会長連絡会でもこの話題がよく出る。うまく役員の方々が交代されているところもあれば、長年会長をされていて、なかなか後継者がいないということもある。地域ごとの事例を見て、うまくいっているところの仕組みを引用するなどの共有は必要だと思う。それぞれの団体で悩み

があるだろうし、行政の仕組みや制度に対するご提案等があればいただければ
と思う。

田中会長 今日皆さんの活発なご意見をいただいた。また、次回もよろしくお願
いする。